

ヘルニアについて

ヘルニアとは？

ヘルニアはラテン語の“hernia”に由来し、“膨らみ”や“突出”を意味します。一般外科領域では、ヘルニアは臓器や組織が本来あるべき位置から飛び出した(脱出した)状態のことを言います。飛び出しているものは必ずしも腸管とは限りませんが、一般外科で扱うヘルニアはいわゆる『脱腸』のことです。通常、腹壁(お腹の内側の壁)に穴があくことで生じます。

鼠径ヘルニア

最も多いタイプのヘルニアです。足の付け根より内側の下腹部周囲を鼠径部と言い、鼠径部にぽっこりとした膨隆がある場合は鼠径ヘルニアが疑われます。左右どちらの鼠径部にも起こり得ます。乳幼児から成人、老人まで様々な年齢層で発症しますが、男性に多くみられ、一生のうち男性の27%、女性の3%に鼠径ヘルニアが起こると言われています。

腹壁癒痕ヘルニア

腹部手術を受けた方に起こるヘルニアです。創部(手術で切った部分)に脱腸が起こったものです。創部周囲に膨隆が生じた場合は腹壁癒痕ヘルニアが疑われます。

その他のヘルニア

- ・大腿ヘルニア
- ・臍ヘルニア
- ・白線ヘルニア
- ・閉鎖孔ヘルニア

手術の目的・必要性

様々な種類のヘルニアがありますが、いずれのヘルニアも立った時や腹圧がかかったときに膨隆し、違和感や不快感、疼痛を伴うことが多いです。飛び出した腸などがはまりこんで戻らなくなることを嵌頓(かんとん)すると言い、腸閉塞を起こしたり、ひどい場合は腸管が壊死して腹膜炎を引き起こしたりすることがあります。嵌頓が解除できない場合は緊急手術が必要になります。

不快な症状を取り除き、臓器や組織が嵌頓することを予防する目的で手術を行います。腹壁にあいた穴が自然にふさがることではなく、手術以外でヘルニアを根治する治療法はありません。

手術の目的・必要性

臓器や組織が脱出していれば腹腔内(お腹の中)へ戻し、腹壁の穴を閉鎖します。閉鎖する方法は、

- ①人工物を使用せず、筋膜などの生体組織を縫い合わせて閉鎖する方法
- ②メッシュを用いて閉鎖する方法

の2通りがあります。通常は術後の痛みが少なく、再発率が低いメッシュを用いる方法で手術を行います。

当院ではいずれのヘルニアに対しても主に腹腔鏡手術を施行しております。傷が小さく、術後の回復が早いからです。腹腔鏡手術が適していない症例(再発症例や前立腺術後など)では、従来の鼠径部切開法で手術を行います。どちらの術式にしても、通常は術後2～3日で退院可能です。

